

会議要旨	
会議名	令和7年度第1回中小企業等活性化会議
開催日時	令和7年10月16日(木)13時30分~14時40分
場所	合志市役所2階大会議室
出席委員	池永幸生委員(会長)・馬場徹委員(副会長)・池永けい子委員・下田竜輔委員・大塚歩委員・鈴木憲治委員・小山善文委員・穴井憲義委員・松原寿幸委員・平井祐佳里委員・辻藍委員・塚本健洋委員
欠席委員	米田珠実委員・渡辺資文委員・永目佐智子委員・木永和博委員
出席者	合志市商工会 奈田課長 《事務局》衛藤課長・綾部課長補佐・小西(記)
議題	(1) 中小企業振興施策の実績について (2) 優良中小企業表彰推薦について (3) 合志市事業承継・創業支援策について (4) その他、意見交換
その他	

【事務局】

事前に欠席のご連絡をいただいた委員さんがいらっしゃいますので、開会に先立ち、お知らせします。名簿8番米田委員ご欠席のため、合志市商工会・奈田総務課長が代理でご出席いただいております。また、名簿10番渡辺委員、名簿13番永目委員、名簿16番木永委員もご欠席です。

また、事前に郵送した会議資料の委員名簿に一部修正がございましたので、机上に配付した名簿と差し替えをお願いします。会議資料をお忘れの方がいらっしゃいましたら、事務局へお声かけください。

定刻になりましたので、開会に先立ち、挨拶から始めたいと思います。皆様ご起立ください。
「こんにちは」。ご着席ください。開会の挨拶を商工振興課長の衛藤が申し上げます。

【事務局】

皆様、こんにちは。今年4月から商工振興課長を務めております衛藤と申します。よろしくお願いします。委員の皆様には、お忙しいなか、お集まりいただきありがとうございます。

ただいまより、令和7年度第1回合志市中小企業等活性化会議を開催いたします。

【事務局】

続きまして、市長挨拶。荒木市長お願ひいたします。

【荒木市長】

巷では、誰が総理大臣になるのが注目されているが、なぜ総理大臣にこだわるのかというと、経済対策、物価高騰への対策がどうなるかを国民が気になっているため。

市政においても同じ。政権は抜きにしても、行政がしっかりと自治体運営をしていかなければ、地域の方々が合志市から離れて行ってしまう。

市役所職員には、事業の目的は、市民のため、地域のために税金を使っているということを念頭に仕事しなければ、市民からの信頼を得られないと伝えている。今やっている事務事業の内容を情報公開し、説明責任を果たして、やりがいを持って働いてほしい。

合志市では、自治基本条例に基づき、市民・議会・行政の三者が市の方針を決めることとしている。

この会議では、こういう施策をやれば雇用が増える、経済が良くなるという案を、いろいろな角度から出していただき、合志市の発展に繋げていただきたい。委員の皆様一人一人が合志市を引っ張っていっていただくという気持ちで、今後ともご協力をお願いしたい。

【事務局】

ありがとうございました。ここで荒木市長は公務のため退席させていただきます。

また、委員の所属団体の人事異動等に伴い、合志市商工会青年部長と合志市議会議員が交代されております。下田委員と辻委員の机上には委嘱状を配布させていただいております。

初めての方もいらっしゃいますので、委員の皆様全員から、簡単に自己紹介をいただきたいと思います。

～各委員自己紹介～

【事務局】

ありがとうございました。それでは議題に入りたいと思います。

設置要綱第6条第2項により、「活性化会議の議長は会長が当たる。」と規定しておりますので、池永会長、議長をお願いいたします。

【会長】

議題に沿って、事務局から説明やご提案があるかと思います。委員皆様のきたんのないご意見をよろしくお願ひいたします。

それでは、議題(1)中小企業振興施策の実績について、事務局の説明を求めます。

議題(1)中小企業振興施策の実績について

【事務局】

(説明要旨)

・合志市の創業支援策としては、創業支援事業補助金・創業融資・信用保証料補給金という主に3つの支援制度を行なっている。

- ・合志市創業支援事業補助金は、令和2年度からスタートし、令和6年度までの5年間で51名へ交付。そのうち個人事業主は約56%、女性創業者は約35%。業種別にみると、サービス業具体的には美容室やマッサージ、ネイルサロン等が多い傾向にある。

【会長】

事務局より、中小企業振興施策の実績の説明がなされました。何かご意見はありますでしょうか。合志市商工会は会員数が820者を超えました。今後、創業者が増えれば益々、会員数も増えるのではかと思います。

それでは、ご意見がないようであればに議題(2)へ移ります。

議題(2)優良中小企業表彰推薦について

【事務局】

(説明要旨)

- ・合志市優良中小企業に選ばれた企業には、来年度の各団体の総会で表彰式を行ない、表彰状およびトロフィーを授与する。広報誌にも掲載。
- ・今回、合志市商工会より株式会社でんきのサントップ、合志市企業等連絡協議会よりラインテクノス株式会社の推薦があった。合志市優良中小企業表彰要綱第2条に基づき、推薦企業2社を認定するか審査をお願いしたい。

【会長】

市商工会、市企業等連絡協議会より推薦のありました2社について、優良中小企業表彰要綱に基づき審査します。推薦企業2社についてですが、推薦書を確認したところ、優良中小企業としてふさわしい企業と判断できますので、認定することは問題ないと考えますが、委員の皆様からご意見等ありますでしょうか。承認する場合は拍手をお願いします。

～拍手～

【会長】

ありがとうございました。推薦企業2社を令和7年度の優良中小企業として認定します。

それでは、議題(3)について、事務局より説明をお願いします。

議題(3)合志市事業承継・創業支援策について

【事務局】

(説明要旨)

- ・昨年度の本会議で、JA菊池も含めた10者で事業承継連携協定を締結する案を説明していましたが、JA菊池は「営農関係の事業承継は既にできており、この協定に加わってもあまり力になれない」との理由で参入を見送られたため、結果的には9者で令和7年1月28日「合志市事業承継・創業連携支援に関する協定」を締結した。

- ・連携協定後のスケジュール案では、令和7年度に事業承継セミナーを開催、令和8年度に市

独自の事業承継補助金を新設する予定だった。しかし、県が今年度新たに「熊本県事業承継・後継ぎ応援事業補助金」をスタートさせ、事業費 200 万円未満の小規模事業者も申請可能となった。事務局会議にて協議した結果、事業承継に必要な経費は国と県の補助金でほぼ網羅しているため、現時点では市が独自に補助金を新設する必要はないという結論に至った。

- ・ 今年度初開催「合志市事業承継・創業セミナー」の報告。第1回目は10月2日に開催し、定員30名に対し参加者15名だったため、第2回目(2月5日)はもっと周知に力を入れたい。
- ・ 令和7年1月28日「合志市事業承継・創業連携支援に関する協定」を締結後、事業承継成立案件は2件。概要報告。

【会長】

事務局より、合志市事業承継・創業支援策の説明がなされました。何かご意見はありますか。

【委員】

合志市で事業承継を必要としている会社は何社あるのか？

【市商工会】

今年8月に商工会会員820名向けにアンケートを送付し、約200名から回答。まだ結果を集計中のため分析はこれから。ただし、事業承継に関する相談件数は増加している。

【委員】

200名のうち、どの程度が後継者が決まっていないか等がわからないと議論できない。

【事務局】

令和4年度に県商工会連合会が合志市内事業者向けに事業承継アンケート実態調査を実施した結果によれば、経営者が65歳以上かつ後継者が決まっていないと回答した事業者は15名だった。最新情報を知るために、今年度、商工会にアンケート調査を実施してもらっている。

【委員】

市には継続的に実態調査を実施していただき、TSMCの影響がどの程度あるのか等、動向を見たうえで何か対策があるのかを今後議論したい。

【委員】

先ほど紹介された事業承継成立案件の例はどのようにしてマッチングしたのか。

【事務局】

いきなり団子と総菜を製造販売されている会社で、家族経営されていたが、40代の代表者が体調不良となり、ご家族も継がないとのことで、廃業を検討されていた。合志市のふるさと納税返礼品としても人気の商品だったため、廃業ではなく事業承継をしませんかということで市から話

を持ちかけ、商工会や県商工会連合会、県事業承継引継ぎ支援センターの協力を得ながら、約2ヵ月で市内事業者とマッチングが成功した。

【委員】

私も10年以上前に従業員へ事業承継した。候補者5名を指名し、切磋琢磨してもらいながら、最終的に皆が後継者と認めるまでに7~8年かかった。事業承継は株等の問題がある。先代の想いをどう引き継ぐかも含めて、10年くらいの長いスパンで考えないといけない。

【委員】

私も53歳になるが、5年くらい前から事業承継を考えている。40~50代から後継者について考えておかないとすぐには決まらない。また、先人の想いと新しい人の想いがマッチングしなければ、仮に会社は継いだとしてもうまくはいかない。国と県の補助金が充実しているのは理解したが、1回補助金もらったら終わりではなく、事業者側は、事業承継をするためには10~15年と長期的に費用がかかるという点は共通認識として持っておいた方が良い。

【市商工会】

アンケートに回答されない方は「自分はまだ若いから後継者問題は関係ない」と思っているかもしれないが、若いうちから事業承継に关心を持っていただきたい。そのためには市主催の事業承継セミナーは良いきっかけになる。また商工会としても、長い目線で支援をしていくスタンス。

【委員】

商工会で、市内企業の譲りたい側だけではなく、譲り受けたい側の把握もしているのか？

【市商工会】

第二創業を考えている人や、M&Aを希望している人も、譲受側として、県事業承継引継ぎ支援センターや日本政策金融公庫のマッチング登録をしてもらっている。

【委員】

事業承継には大きく3つ、親族内承継・従業員承継・第三者承継がある。第三者承継の場合、自社の会社にどの程度価値があるのかを知るために、マッチングアプリのようなサイトを利用するのも一つの手。ビズリーチの子会社で、肥後銀行の関連会社であるため、必要であれば紹介可。

【委員】

1年半前に人吉の企業を買収したが、買収金額4,000万円に対し、仲介手数料300万円だった。一般的には事業承継の仲介手数料400万円程度の規模が多いと言われている。

【委員】

県事業承継引継ぎ支援センター等では無料で相談に乗ってもらえるが、他にも株売買について

等、いろんなアドバイスができるので、セカンドオピニオンという意味で銀行へ相談してもらつても良い。

【委員】

毎日のように「会社を売りませんか」というダイレクトメールが全国から来るので、経営者は事業承継に关心はあると思う。

【会長】

さまざまなご意見ありがとうございました。では議題(4)に移ります。事務局または委員からご意見、ご要望等がありましたらお願ひします。議案に關わらず、なんでも結構です。

議題(4) その他、意見交換

【委員】

合志市としては、合志市内の企業同士でマッチングしてほしいのか？

【事務局】

法人税との兼ね合いもあるが、事務局会議にて検討した結論としては、合志市内の店舗を潰さないというのが第一条件で、できれば市内企業同士でマッチングしてもらうのが一番良いが、難しい場合でも、市外の企業が合志市の店を受け継ぎ、技術や味を守ってくれるのであれば支援するという考え方。

【会長】

他に質問はありませんか。

【委員】

以前、合志市はふるさと納税には力を入れないというスタンスという説明を受けたが、現在はどう考えているのか。

【事務局】

個人の方からのふるさと納税寄附は財政課、企業版ふるさと納税が秘書政策課が担当している。商工振興課としては、返礼品について力を入れていかないといけないと思っている。

合志市の個人版ふるさと納税については、寄附額は若干減っており約2億円。ふるさと納税制度自体がネットショッピングのようになっていることが問題視されているが、市として何もしないわけにはいかないので、返礼品を充実させたり、見せ方の工夫をしないといけないと認識している。

また最近、返礼品の品物代と経費の合計が寄附額の5割を超えてはいけないというルールに違反したとしてふるさと納税制度から除外された市町村がニュースになっていたが、その点についても気をつけながら運営しなければならない。現在、合志市の返礼品人気上位は県共通の返礼品

である水や馬刺し等だが、地元の産品が上位になるようにしたい。

企業版ふるさと納税については、肥後銀行にも協力していただき、県内外の企業から寄附をいただいている。

【委員】

合志市は勢いがある市ということで興味を持つ企業も多く、県内市町村のなかで企業版ふるさと納税は合志市が1位。

【委員】

大分県の日出町は小さい町だが、ソニーのカメラを返礼品にしており、寄附額8億円超。

【委員】

寄附受入額に対し、合志市民が他市町村へふるさと納税寄附している額の方が大きいのか。

【事務局】

合志市民が他市町村へ寄附している額の方が大きいが、交付税措置があるため、最終的に赤字にはなっていない。

【委員】

ふるさと納税は2億円だが、たばこ税の収入が4億円あるためそこをPRするもの一つの手。

【会長】

本日は、慎重なるご協議をいただきまして誠にありがとうございました。事務局においては、本日の委員の意見を尊重し、中小企業振興施策に反映していただきますようお願いします。

【事務局】

池永会長、議事進行ありがとうございました。それでは、閉会に移ります。

【事務局】

長時間の審議、どうもお疲れさまでございました。委員の皆様方からいただいた貴重なご意見を参考にさせていただき、今後の合志市の活性化につなげていきたいと思います。

それでは令和7年度第1回合志市中小企業等活性化会議を閉会いたします。本日は誠にありがとうございました。